

項目	チェック内容	A	B	C	D	現状と課題	今後の取組み	
①	教育課程 カリキュラム・マネジメント ※教科等横断的な視点で教育内容を組織し、PDCAサイクルを確立しているか。	○				4月にNRTテストを実施し、各教科や学年で、生徒の現状把握を行った。全校的に、知識・技能の定着を図る必要がある。	学習を進めながら、既習事項の確認を念入りに行う。また、評価を適切に行い、生徒の学習に役立てる。	
②	単元 単元の学習過程 ※単元等のまとまりで問題解決的な学習過程を仕組んでいるか。			○		単元等のまとまりを意識した課題解決的な学習がよくできているという授業者が少ない。今後授業に取り入れる必要がある。	教科を越えて授業を相互参観し、授業改善を進めていく。	
③	1 単位時間 課題提示 学習活動（課題解決） 評価	単元全体の見通しと現在地の把握 ※児童生徒に学習の道筋を理解させているか、前時の復習をさせているか。		○		学習カード等を利用して小単元の目標を提示したり、1単位時間の学習の流れを提示している。	今後、生徒の個人内評価が残る形で、学習の現在地を把握する手立てを考えていく。	
④		本時の学習課題の把握 ※児童生徒に解決すべき本時の課題を明確に把握させているか。		○		教師と生徒で本時のめあての共有はできている。今後、より具体的なめあてや課題を提示していきたい。	めあてだけでなく、本時の学習評価についても授業のはじめに共有させたい。	
⑤		個別の課題解決学習(PersonalWork) * ※課題解決の時間や場を確保しているか。	○				どの教科でもPWの時間を十分に確保し、自分の考えを書かせるようにしている。	粘り強く課題に取り組むことができない生徒も見られるので、個に応じた支援を充実させる。
⑥		グループによる課題解決学習(GroupWork) * ※課題解決に向け、複数意見からひとつの意見にまとめるような話し合いの場を仕組んでいるか。			○		新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、例年に比べると減っている。今後対策を考え、GWも取り入れる必要がある。	全教科でGWを充実し、生徒の言語活用力を伸ばす。
⑦		クラスによる課題解決学習(ClassWork) * ※各グループの意見を生かした話し合いを仕組んでいるか。			○		PW、GWからCWへの授業の深め方について、教師自身の意識が低い。	まなボードやタブレットを活用していきたい。また、話し合い活動を位置付けた授業の推進を図る。
⑧		教師による解説、解決、解答 ※児童生徒の学びを深め、理解不足を補う説明を行っているか。	○				本時の課題に対する補足を説明、解説している。また、確認テストを行い、理解度を計っている。	必要最小限の解説にとどめ、生徒自身のまとめへのつながりを考えていく。
⑨		子どもの最終的な記述(表現) ※本時の学習課題と対応した記述(表現)をさせているか。		○			ワークシート等を用いて、教科に応じた単位時間のまとめを行っている。	今後も書かせることを継続して指導する。個別支援を充実させる。
⑩		学習の振り返り ※学んだことの整理や自己評価の場を設定しているか。			○		ふり返りの時間を充実させることが、全教科共通の課題である。	自分の言葉で書かせるようにし、どのような内容を理解したのか、より具体的に書く時間を設定する。
⑪		条件に応じた記述(書く力) ※条件付きの書く活動を授業の中に仕組んでいるか。		○			各教科で条件付きの書く活動を取り入れるよう意識づけている。書く力に関しては、生徒の個人差が大きい。	書けていない生徒に対して、どこまで書けているのか、どうすればよいのかなど、具体例を示しながら支援を行う。
⑫		その他	言語活動を活発にする教育環境 ※学習活動を活発にするために掲示物等の教室内外の環境を工夫しているか。		○		各学年、各教科で「めあて」と「まとめ」を統一して掲示、利用している。	評価に関する視点もふくめて、生徒との共通理解のために掲示物を工夫していきたい。
⑬			ノート指導 ※学校や教師の指導の意図を反映させたノート指導を行っているか。		○		ノートを定期的にチェックし、評価と指導を行う。また、モデルとなるようなノートについては、掲示するなどして生徒と共有	個別指導を継続させながら、個に応じたノート指導を行う。
⑭	学習規律 ※児童生徒に学習規律を理解させ、主体的に守らせようとしているか。				○		生徒会でも学習規律に対して活動を行っているが、定着については学年間で差が見られる。	学年職員間や教科間など、情報共有を図りながら、学習規律の理解を生徒へ促す。
⑮	家庭学習 ※単元の指導内容や方法と結びつけた課題を出しているか。				○		本時、次時の授業内容に合わせて、復習課題や予習課題に取り組んでいる。しかし、家庭学習の習慣化にはつながっていない。	課題のより効果的な内容を模索していく。
⑯	学習内容の定着 ※学年間・小中間における教科の系統性を見通し、復習の時間を計画的に仕組んでいるか。			○			学習内容や生徒の習熟に応じて復習問題に取り組みせている。	朝読書の時間を学習時間としても有効利用していく。
その他の取組み								

* PW・GW・CWについて順序性はない。授業のねらいと児童生徒の実態に応じて組み合わせる。